

## 雲仙普賢岳(1359m)平成新山新ルート



雲仙観光協会  
HP 地図

深江道の駅から平成新山



ヤマグルマ



北の風穴



H24.8.26(日) 12名参加 (天草山岳会)

1号車-NR、MH、S、N

2号車-K、KH、T、KM

3号車-U、Y、NT、NE

■8/26 快晴 6:00 天草市役所出発, 6:20 鬼池港 2名合流,6:30 出港,7:10 口ノ津港,7:45 深江道の駅,8:01 島原外港 1名合流,8:45 仁田峠,9:04 仁田峠出発,9:46 紅葉茶屋,9:52 鬼人谷口,10:28 北の風穴,10:35 鳩穴分岐,10:53 立岩の峰,11:10 霧氷沢,11:35 普賢岳(弁当),12:12 下山,13:35 仁田峠,14:08 青雲荘温泉,15:05 出,15:38 島原外港,16:30 口ノ津港,18:00 諫早 IC,20:10 松橋 IC,21:40 本渡解散,参加費 160[480]km4000[追加 1000]円(資料代,保険代,フェリー代,高速代写真代,車代還元 3000[補填 3000]円)

■早朝天草市を9名が車3台で出発する。鬼池港で2名が合流しフェリーに乗船、口ノ津港に上陸した。大型の台風15号が沖縄に接近中で少し風が有るが波は穏やか快晴である。

深江道の駅でトイレ休憩し、島原外港で1名が合流して12名になる。国道57号を走り順調に仁田峠駐車場へ到着した。

かなり強い風が吹いていて少し心配だが各人自己紹介をして、気を引き締めて登山を開始する。あざみ谷へ入ると日陰が続き涼しくて歩きやすい。紅葉茶屋から左折し鬼人谷口で右折、ここから今年5月に規制解除された登山道が始まる。

西の風穴の付近には岩の割れ目から冷蔵庫を開けたように冷気が流れ出している所がありとても涼しい。次の休憩所でヤマグルマが岩壁に張り付いていた。ヤマグルマは1科1属1種の常緑高木で葉が車状に輪生するのが名前の由来。花期は5-7月、黄緑色の総状花序を付ける。この花を見たかった。またヤマグルマの樹皮から鳥もちを作ることができるのでトリモチノキの別名がある。

風穴には昔蚕を休眠させるための繭小屋があったそうで基礎の一部が残されていた。このような山上まで人肩で運んだのだろう。

## ホトトギス



立岩の峰から普賢岳



ダイモンジソウ



普賢岳山頂(背後に平成新山)



北の風穴からすぐに鳩穴分岐の展望所に至ると諫早湾と多良岳方面、島原半島多比良町方面、有明海が一望となる。ちょうど普賢岳を右回りに半周したことになる。

鳩穴分岐から少し登ったところにホトトギスが咲いていた。花は萎れかけていたがまだ奇麗である。ホトトギスはユリ科の植物でギリシャ語のトリキルティス(三・曲)が語源。花にある斑点模様が鳥のホトトギスの胸の模様と似ていることから由来すると言われる。

急坂を登り、しだいに樹林の背丈が低くなり見晴らしが良くなる。立岩の峰へ登ると樹海の先に普賢岳の山頂が見え、左側に平成新山の溶岩が迫っている。

立岩の峰から鞍部へ下り、霧氷沢分岐を左折する。霧氷沢の岩陰にダイモンジソウが咲いていた。霧氷沢分岐へ戻り、シシウドの花を見ながら登り、ついに普賢岳山頂に到着。多くの登山者で賑わっていた。風もそれほど強くなく快適。快晴の空のもと記念写真を撮り、弁当を広げる。

そろそろ帰りのフェリーが心配なので早々に下山を開始した。仁田峠駅まで下ると相変わらず強い風が吹いている。

雲仙温泉街へ下り、左折して青雲荘温泉に入る。硫黄の匂いのする白濁した温泉は最高の気分。一時間ほどゆっくりした後、国道57号を島原外港へ戻る。1名を降ろし口ノ津港へ急ぐ。海はかなり時化しており白波が見える。口ノ津港に近づくと風向きのせいか波が穏やかになり、フェリー乗り場へ到着。ところが最終のフェリーが出港した後で次の便から予告なしの欠航とのこと、一同途方に暮れる。

この期は陸周りで帰るしか無く、諫早 IC へ向かう。すぐ左に通詞島や富岡をながめて涙を流す。諫早 IC から鳥栖 JCT を経由して松橋 IC まで高速を走り、臨時の出費を頂く。

結局島原半島を 3/4 周、有明海を一周して夜中に本渡へ帰った。近くて遠い、しかしまた登りたい雲仙普賢岳。(N)